

スーパーシティで目指すまちのイメージ

1 構想策定の背景

本市はこれまで、デジタル化に関して行政内部を中心に取組を進めてきましたが、未来に向けて市民の暮らしがより一層便利で快適なものとなるよう、令和2年（2020年）10月28日に「小田原市デジタル化推進本部」を設置し、市を挙げて「デジタル化によるまちづくりの推進」に取り組むこととしました。

国では、AI（人工知能）やビッグデータなどの最先端の技術を活用して、規制改革に取り組みながら複数の分野でスマート化の取組を同時に暮らしに実装し、社会的課題の解決を図る生活実装実験を行うことで、未来の暮らしを先行実現するため、「スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に関する公募」を令和2年（2020年）12月25日から開始しました。（令和3年（2021年）4月16日午後6時締め切り）

本市としては、この機会を活かし、「デジタル化によるまちづくりの推進」を加速させるため、スーパーシティの区域指定を目指すこととし、地域課題の設定、事業計画の作成、先端的技術の活用などスーパーシティ構想全体を企画する存在である「アーキテクト」やデータ連携基盤整備事業及び先端的サービスを実施する「連携事業者及び事業提案」の公募を行った上で、スーパーシティで目指すまちのイメージをまとめました。

2 スーパーシティで目指すまちのイメージ

本市がスーパーシティで目指すまちのイメージの概要については、次のとおりです。

取組分野	主な取組内容
医療・健康	<ul style="list-style-type: none">●新市立病院における診察券レス・処方箋レス・キャッシュレスによるスマート医療手続やオンライン病診相談●ウェアラブルデバイス（身体に装着して利用する端末）とスマホアプリを活用した健康記録管理支援●先端技術による心身状態の未来予測●先端技術による移動の効率化と医療情報連携によるスマート救急搬送
防災	<ul style="list-style-type: none">●ドローン・AI等を活用した被災状況把握や災害予測●災害時における個人属性に合わせた情報提供や避難所生活支援●SNS投稿分析による被災状況解析
エネルギー	<ul style="list-style-type: none">●非常時における蓄電池等の分散電源による「仮想発電所（VPP）」を活用した自立分散型エネルギーの街づくり

	<ul style="list-style-type: none"> ●EV 大量導入を見据えた充電インフラ整備 ●サイネージ機能（文字等を表示する機能）や太陽光発電機能を持たせたスマート窓等によるエネルギーの効率化や情報発信
観 光	<ul style="list-style-type: none"> ●支払いやホテルチェックインなどをスマート化した「手ぶら旅行」の実現 ●混雑情報や個人の志向等のデータ活用による個別最適化プランの提供 ●MR（複合現実）グラスを活用した歴史体験やお土産チョイス ●先端技術による移動の効率化と体験価値向上
交 通	<ul style="list-style-type: none"> ●人流モビリティ（オンデマンド配車、自動運転）の導入 ●物流モビリティ（ドローン、無人配送）の導入
教 育	<ul style="list-style-type: none"> ●学校情報、健康情報、塾の成績など子供に関する情報を一元化した教育の最適化 ●オーストラリアのノーザンビーチーズ市とのデジタル化の事例の共有等による都市間連携